

2 学期、生徒たちは、日々の授業に加えて、体育祭や合唱祭、いじめ見逃しゼロスクール集会、生徒会役員選挙などを通して大きく成長しました。まさに実りの 2 学期。板倉中の実りを支えてくださった保護者、地域の皆様に、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

終業式で全校生徒に次のように語りかけました。

まもなく令和 2 年が終わり、新しい年が来ようとしています。二学期は酷暑の最中である 8 月 18 日に始まり、今日、すっかり冬景色の中で終業式を迎えました。

「二学期がんばったこと」の発表、素晴らしかったです。代表だけでなく皆さん全員が目標に向かって一生懸命努力したこと、また、友人の努力を応援したり認めたりした、充実した二学期だったこと、とても嬉しく思います。

さて、20 年ほど前の「ペイ・フォワード」という映画の中のお話です。(文法的には「Pay it forward」が正しいのでしょうか)

主人公のトレバー少年は、ラスベガスに住んでいます。幸せとは言えない家庭環境で、学校ではいじめられていました。ある日、社会科のシモネット先生から「自分の周りの世界が好きになれず、大きな失望を感じていて、もし自分の手で、その世界を変えたいと思ったら何をする?」と尋ねられました。

皆さんなら何と答えますか? 世界は未だ新型コロナウイルス感染の収束には至っていません。大切な命を落としたり、病に苦しんだり、医療に従事して最前線で戦ったりしている方々の大変さを思うと、「世界を変えたいと思ったら何をする?」と聞かれても「無理!」「変えるなんてありえない」と答えなくなるかもしれません。

トレバーは、「世界を変えるために、自分が受けた善意や思いやりを、その相手に返すのではなく、別の 3 人へ渡す」という計

画を思い付き、実行します。なかなかうまくいかないと思っていましたが、やがて、トレバーの知らないところで、彼の行動から街中に親切の輪が広がります。失望していただくさんの人々が、誰かから受けた思いやりによって失望から立ち上がり、夢と可能性に向かいます。世界が可能性に輝きだしたのです。想像してみてください、1 人の善意や思いやりが 3 人に、もしその 3 人もトレバーのように、また 3 人に親切にしたら……。いま私たちが生きている世界は変えられる」トレバーの小さな取組から私たちは大きな勇気をもらえます。

日本にも「恩送り」という言葉があります。誰かからいただいた恩をその人に返す「恩返し」だけではなく、別の人にも渡す「恩送り」をすることで優しさや思いやりが世の中を巡って広がっていく習わしです。日本でも、トレバーが抱いたような気持ち大切にしていたのです。

今年もあとわずかになりました。明日から冬休み、もう八つ寝るとお正月です。今日は、2 学期にがんばったこと、成長したことを、家族と一緒に通知表を見ながら振り返ってください。皆さんには、家族をはじめ、支えてくださる人がたくさんいます。その感謝の気持ちを、たくさんの人に恩送りしながら、希望をもって新しい年を迎えてほしいと思います。

新年、3 学期始業式には、優しい気持ちと新たな決意に満ちた明るい笑顔の皆さんに会えることを楽しみにしています。

冬休みは子供たちをご家庭や地域にお返しします。年末年始の行事を一緒に過ごす時間も多いことでしょう。子供たちに愛情あふれる言葉でたっぷり語り掛け、子供が語る新年の夢や希望に耳を傾けていただきたいと思います。板倉中職員も志を新たに、保護者、地域の皆様とともに子供たちの明るい未来を支えたいと思います。

皆様、どうぞよいお年をお迎えください。